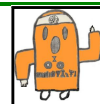




【目指す児童像】
考える子 健康な子
親切な子 がんばる子

いずみ

2025.1.28
ひたちなか市立
中根小学校
学校だより No.17



児童数（1年生:52名 2年生:56名 3年生:44名 4年生:54名 5年生:62名 6年生:42名）計310名

今年もよろしくお願ひいたします

ついこの間、令和7年が幕を開けたと思っていたのですが、もう1月も終わろうとしています。先日、元シアトルマリナーズのイチローさんが野球殿堂入りを果たしました。その時のインタビューで、イチローさんに投票しなかった記者が一人いたことに対し、イチローさんはこのようなことを話されていました。「1票足りないというのは、凄くよかったです。 (中略) いろんなことが足りない。人って。それを自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生だと思うんです。 (中略) 不完全であるというのはいいなって。生きていく上で不完全だから進もうとできるわけです。そういうことを改めて考えさせられるというか、見つめ合える。そこに向き合えるのは良かったと思います。」(1月22日付NHKニュースより一部引用)「不完全であることはいいな。不完全だから進もうとできる」という言葉がとても印象に残りました。学校はそういうところだと思います。「わからない、できない」という不完全な姿に向き合い、「わかった、できた」に向かって進もうとする場だと思います。私たち教職員も不完全な部分と向き合い、よりよい学校づくりに一歩ずつ進んでいけるよう一生懸命頑張ります。

書き初め会

10日と15日に校内書き初め会を実施しました。書き初め会は、「新年を迎え、新たな決意をもち、それを毛筆で表現することを通して、日本の文化・伝統に触れる。」「正しい筆づかいを習得するとともに、筆を用いて表現する喜びを味わうことができる。」ことをねらいとしています。低学年は各教室で、高学年は体育館で行いました。高学年は、きちんと正座をし、あいさつをしっかりとしてから半紙に向き合いました。ストーブは焚いてあるものの少し寒さを感じる体育館でしたが、逆にその冷たい空気が気持ちを引き締めるとともに、凜とした雰囲気醸し出していました。書道の先生のご指導を受け、児童は真剣に半紙に向き合い、一人一人、丁寧に書き上げていました。



学力診断のためのテストが実施されました



16日と17日に「学力診断のためのテスト」が4年生以上を対象に国語、算数、理科、社会の4教科で実施されました。このテストは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する学習活動を充実させ、学習意欲や思考力・判断力・表現力等を育成し、確かな学力の向上を図る。」「児童の学力の実態を指導年度内に把握し、補充指導等を通して、学力の定着を図るとともに、指導方法の改善に役立てる。」ことを趣旨として実施されます。テストの結果に一喜一憂するだけでなく、自分の得意なところ、苦手なところを把握し、今後どのように学習に取り組んで行けばよいか、見通しを立てることがとても大切なことです。冒頭に述べた「不完全に向き合う」ことのひとつと捉えてほしいと思います。また、私たち教職員も児童の実態を把握するとともに、今後の指導方法を改善していくことに努めます。

子ども伝統文化フェスティバルに参加しました

19日に、市文化会館で開催された「ひたちなか市子ども伝統文化フェスティバル」に5年生が参加してきました。5月の「いずみ」にも掲載しましたが、5年生は、総合的な学習の時間で我が国の伝統文化について学習しています。その一環として我が国の伝統的な楽器である和太鼓の学習に取り組んできました。その学習成果の発表としてステージ演奏を披露してきました。当日はおそろいの法被を羽織って演奏に臨みました。中根フェスティバル等で何回か校内では演奏を披露してきており、練習も十分に積んできたのですが、児童の面もちはとても高い緊張感が感じられました。しかし、ステージで演奏が始まった途端、その緊張が嘘のように解き放たれ、勇壮かつ堂々とした演奏が繰り広げられました。演奏の後半に向けて聴衆をどんどん巻き込み、フィナーレと同時に会場から「うわ〜!」という歓声があがりました。とても感動的でした。5年生の皆さんに大きな拍手です。



校内でのリハーサル